

社会福祉法人 御前崎厚生会
 特別養護老人ホーム 灯光園
 電話 (0548)63-3729(代表)
 FAX 63-4131
 灯光園デイサービスセンター
 63-6002
 灯光園在宅介護支援センター
 63-5116
 灯光園居宅介護支援事業所
 63-5115



寒いですね

施設長 澤島久美子

新しい年が始まりました。なかなか大変な状況です。灯光園入居のお年寄りはその中でも変わらない生活をされています。

年末は恒例の全員福引をしました。お年寄り職員を合わせ一七五人です。特賞のカニは職員が見事当てました。

ネギトロやインスタントラーメンなど、うれしい景品をいただきました。

餅つきも密を避けながら行いました。「よいしょ！」の掛け声が響きました。年取り餅を食べ、一つ年をとります。

お正月には職員が着物姿で登場。みんなの目を楽ませてくれました。二日には獅子舞もユニットを回りお正月らしい雰囲気を作りました。

もうすぐ節分。「福は内」春が待たれますね。

最後まで自分の人生を生きる

ユニットリーダー 澤入香名美

皆さんは施設に入居すると今までの生活はできなくなってしまうのでは？と思われるのではないのでしょうか。灯光園ではユニットケアを行っています。今までの生活を続けてもらえるようお手伝いさせてもらっています。

Sさんは入居前はデイサービスに行くため早起きをし、自分で支度をされていました。園でも朝早くに目覚めているので、早くから支度を始めます。自分のペースで行っていました。音楽の先生をしていたので、コンサートなどのイベントがあれば聴きに行ったこともありましたが、さすが、病気のため、だんだん体を動かすことやお話をするのが困難になっていきます。今まで通りに出来ることばかりではなくなくなっていきます。その中で、Sさんの思いに添うために、してきたことや好きだった

ことを考え、1日1日の暮らしが楽しいものになるようにしていきたいです。今日はこれができたと満足ができる支援ができたかなと思います。

何年も前になりますが、今でも印象に残っていることがあります。Kさんは昔は畑仕事をしていました。Kさんは昔は畑仕事をしていた。朝早く起き、家の近くを歩くことを日課にしていたそうです。入居された時は寝たきりの生活でした。しかし、足を床につくことが出来たので車椅子に移る時には足に力を入れてもらったり、歩行訓練も始めました。歩行訓練も2人がかりです。1人が歩行器を持っているKさんを支え、もう1人が足の運びを手伝います。調子がいい日もあれば、その逆の日もあります。その日は普段よりも歩くことが出来ました。歩行訓練をしている職員、ユニット職員みんな大喜びです。Kさんも普段は見せない、にっこりととてもいい笑顔を見せてくれました。普段会話することができな

い方が見せてくれた表情を嬉しく思いました。動けないから仕方がないと思うのではなく、いつまでも自分の足で歩くこと、してきたことを続けていくことが大事だとしみじみ思いました。

コロナ禍で今までの生活が出来なくなっています。入居されているお年寄りも面会が制限されたり、外出が出来なかったりと不変な生活が続いています。出来るだけ今までの生活を続けてもらえるよう支援していきたいです。そして、たくさん笑顔が見れるようにしていきたいと思えます。最後までこんなことができた、良かったと思ってもらえるようなお手伝いが出来たらと思います。



グレイタイム



二〇二一年へと月日が流れましたが、何かいつもと違う感じがします。それは、新型コロナウイルスの影響でしょうか？

例年の年末年始は、人の動きが沢山あってざわざわとした感じがありました。今年はというと何かもの足りない感じがします。でも今は、何をやるのにも我慢のときだと思えます。日本だけではなく世界中に大変なことが起きているのです。だから一人ひとりが、この大変なことが起きていくことを実感していなければいけないと思えます。また、一人ひとりが、新型コロナウイルス感染予防を徹底すること、きつと、この大変なことは、乗り切ることができると思えます。

誰もが、以前と変わらない生活に戻ることが願っています。そして、きつとマスク着用の必要がない生活に戻ってほしい。

相談員 今村

コロナ禍での看取り

大澤 幸子

コロナ感染予防対策で各施設での面会が制限されています。

そうした時期に、療養型施設に入所していて、食事が摂れなくなり点滴治療も出来ず看取りの状態になった方がいらつしやいました。ご家族は面会もままならず自宅での看取りを選択され、ケアマネに相談がありました。急なことでどうしようかと不安を感じていたら、病院から訪問看護への連絡がきてすぐに訪問看護との調整がとれました。訪問看護から医師に連絡して、自宅に往診してもらう体制が整いました。そして翌日退所となりました。

自宅に戻るとすぐに訪問看護の方が来てくれました。全身状態を確認し、寝たきりでも傷が出来ない為の保護や、排泄の処置がしやすいおむつの当て方の

指導、ご家族の心配ごとの相談を受けつけてくれました。覚悟が決まったご家族から声を掛けられ布団に横になっていられるご本人はにっこり微笑んでいるようでした。

夕方には、医師も往診してくれて体調の確認と、今後の状態変化についての説明がありました。今晚の体調変化にも対応できることで更にご家族も安心できましたようです。

そしてご家族、親戚、知人の方が入れ替わり声をかけ、住み慣れた自宅での雰囲気にも一晩過ぎられ、翌日の昼に息を引き取られました。

今回、この方の最期を支える医療支援体制は見事な連携で、ご家族も心強く感じたと思います。ケアマネとしても支援の迅速さの必要性を感じました。

そして、自宅で看取りをするには病状の変化や本人の要望への対応、ご家族・ご本人の様々な不安と葛藤があります。ご家

族の仕事などの生活環境にも配慮が必要です。自宅での看取りの選択は難しいかもしれませんが、それでも自宅で最期を迎えたいと思っている方が多いのではないのでしょうか。在宅で最期まで暮らせるようにご本人・ご家族の要望に沿って、体調管理を行う医療体制、環境を整えるための福祉用具、介護負担を軽減するためのヘルパー、自宅で入浴できる訪問入浴等サービスの紹介、調整を行うことがケアマネの仕事です。多職種で連携し、ご家族の不安を少しでも減らせる迅速な支援が出来るようにしていきたいと思えます。



灯光園デイサービスセンター 心む俳句教室

夏富士が衣替えした白き富士

K・Yさん

登校前芋の皮むいた日
遠くにある

T・Oさん

大根なます ご飯と一緒に
食べる地の神様

S・Yさん

はんでんひっかけ藁草履の投稿
懐かしく

M・Sさん

子供のウグイス「チャッチャツ」
と啼いて春を呼ぶ

S・Iさん

芋切り干し作る 寒さ凍みる
冬の思い出

S・Iさん

ひびやあかぎれ藁草履はいて
学校へ

M・Sさん

修学旅行は伊勢
「赤福」買った

S・Mさん

冬の思い出
貸し切りバスの京の旅

K・Nさん

スマホを通して感じたこと

理事長 松下 秀夫

皆様におかれてはコロナの関係で例年と異なるお正月を迎えたことと思います。

さて、世の中では社会生活の利便性を図るため、スマホなどを活用した各種のサービスが急速に進められています。アナログ人間の私ですが、昨年度のことに挑戦してみました。

●マイナンバーカードとマイナポイント取得

マイナポイントは知らないよ。という方もおられると思います。「国がマイナンバーを進めるために五〇〇〇ポイントの人参をぶら下げた制度です」五〇〇〇ポイント欲しさにまんまと乗せられ取得しました。

●キャッシュレス決済

私は、買い物等のレジでの支払いは現金でした。しかし、近頃では御前崎市内でも多くのお

店が現金以外のカードやスマホ

による支払い対応をしています。息子の勧めもあり、家内と

〇〇ペイというスマホによるキャッシュレス決済に取り組みました。最初はレジでの支払いに戸惑いましたが、現金不用や支払い時間の短縮など徐々に慣れてきました。

◆2つの挑戦の中で考えさせられることが多々あります。

なんとといってもスマホによる入力作業は、息子の手伝いが無ければできませんでした。スマホも電話やラインしか使わない人や高齢者にはハードルが高いと思います。

知っている人や使える人が恩恵を受け、早いものが得をする制度は考えさせられます。GO TO 〇〇という制度もしかりと思います。

デジタル社会は避けることはできませんが移行期間は特に親切な対応が求められるのではないのでしょうか。

ボランティア活動

〜ありがとう〜

特養老人ホーム

十一月

静岡銀行小さな親切運動(チューリップ植え、芋ほり)

御前崎支店、御前崎中央支店十一名の皆様

灯光園デイサービスセンター

十一月

〇川口 節子様(絵手紙) 一回

〇鈴木 喜夫様(俳句教室) 一回

十二月

〇川口 節子様(絵手紙) 一回

〇鈴木 喜夫様(俳句教室) 一回

ご寄付

ありがとうございます

静岡県退職公務員連盟榛原

支部・白羽地区の皆様より、

「愛のタオル1本運動」にお

いて会員様から

提供されたタオ

ルを寄付してい

ただきました。



編集後記

餅つき、「パン、パン」と力強い音を聞くところ、気持ちが良いですね。お母さんの手返しは上手かったなあ、おばあちゃんの手つきは上手かったなあ、と思い出します。3人の入居者さんが餅を千切ってくれました。を手伝ってくれました。やっぱり手つきが良いですね。「美味い、グッド!」とお替りして食べる人、「ほれ、食べない」と職員の口に入れてくれる人、どの人の顔も生き生きしていました。

慣れない手つきで杵を振り下ろす若い職員たちに「がんばれ」のメールを送りました。密を避け、マスクを着けての餅つきでしたが、つつい「よいしょ、よいしょ」「がんばれ」の声援をだれよりも大声で叫んでしまいました。

八木